

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	109	科目名	化学物質総合管理学事例研究1		サブネーム	経験に学ぶ化学物質管理		
連携機関名	NITE・化学生物総合管理学会	レベル	中級～上級		講義枠	土曜日	講義時間	14:00～15:30, 15:50～17:20
科目概要	PCB、有機水銀、臭素系難燃剤、塗料、内分泌攪乱物質、食品添加物、石鹼・洗剤など、限られた地域の公害問題ではなく広く消費者や環境へ影響する化学物質を例に、問題の発生から企業及び社会の対応の仕方の実情を紹介し、リスク管理のあり方を解説する。							

サブタイトル	No	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
PCB	1	ケーススタディ(1) PCB(1)	カネミ油症事件の発端から、PCBが原因物質(最終的にはPCB中の不純物PCDF、Co-PCB)として認定されるまでの関係者の対応、裁判の争点と判決等事件の経過を解説し原因究明の重要性と化学物質管理のあり方を解説する。	6月24日	共通講義棟 3号館 105教室	横山泰一	製品評価技術基盤機構
	2	ケーススタディ(2) PCB(2)	PCBによる環境汚染の状況、PCB含有廃棄物とPCB保管の問題点、非意図的に発生するCo-PCBへの対応、PCB廃棄物適正処理推進特別措置法の目的と処理の状況について説明し、廃棄物問題と法制度について学習する。	6月24日			
有機水銀	3	ケーススタディ(3) 有機水銀問題	水俣病の発生からソーダ工業への波及及び水銀法から非水銀法への転換の経緯を解説し、化学物質に対する日頃の対応及び事件が起きた場合の対応について論じる。	7月1日	共通講義棟 2号館 102教室	相川洋明	日本リフォーム
	4	ケーススタディ(4) 有機水銀問題	水銀法から非水銀法への転換の背景及び目的を説明する。	7月1日			
塗料	5	ケーススタディ(5) 塗料(1)	塗料の役割と効用、塗料の構成成分と製法および塗膜形成方法、塗料のライフサイクル(製造～塗装～廃却)におけるリスクについて解説する。	7月8日	共通講義棟 1号館 301教室	浦野 哲	日本ペイント株式会社
	6	ケーススタディ(6) 塗料(2)	産業廃棄物への対応、有害重金属類の削減対策について事例を紹介する。	7月8日			
臭素系難燃剤	7	ケーススタディ(7) 臭素系難燃剤	臭素系難燃剤による環境問題の発生からEUのWEEE指令で全面使用禁止の提案がされるまでの経緯を学び、火災のリスクと環境リスクの関係について考える。	7月15日		横山泰一	製品評価技術基盤機構
	8	ケーススタディ(8) 臭素系難燃剤	OECDリスク削減プログラムの背景及び目的を解説する。リスク削減への取り組みとして、製造企業、ユーザー企業、行政の対応を学び、リスクコミュニケーションの状況を検証する。	7月15日			
内分泌攪乱物質	9	ケーススタディ(9) 環境ホルモン問題	環境ホルモン問題では、何が問題となり、どう展開したかを説明する。	7月22日		西川洋三	製品評価技術基盤機構
	10	ケーススタディ(10) 環境ホルモン問題	環境ホルモン問題に対する企業の見方と対応状況を解説する。このことから今後の対応の仕方考える。	7月22日			
食品添加物	11	ケーススタディ(11) 食品添加物(1)	食品添加物とは何かを解説する。食品衛生法及び施行令、施行規則そして食品添加物品目リストについて説明するとともに、海外の食品添加物規制の概要を解説する。	7月29日		山田隆	食品添加物協会
	12	ケーススタディ(12) 食品添加物(2)	過去の食品に関わった事故事例の問題点を整理し、安全性の確認、表示に関する業界・行政・消費者の取り組みを検証する。	7月29日			
石鹼・洗剤	13	ケーススタディ(13) 石鹼・洗剤(1)	石鹼、洗剤の役割と改良の概要を紹介し、使用や排水に伴うリスク要因の認識とヒトに対するリスク評価状況について解説する。	8月5日 11:50～13:20	共通講義棟 1号館 204教室	三浦千明	ライオン
	14	ケーススタディ(14) 石鹼・洗剤(2)	家庭から環境水中に放出される洗剤の水環境問題対応の経緯を解説し、水生生物に対するリスクについて考察する。	8月5日 14:00～15:30			
事例総合研究	15	ケーススタディ(15) まとめ	ケーススタディ各講義の小論文、質問等からテーマを選定してフリーディスカッションを行い、講義内容の理解を更に深めるとともに、化学物質管理のあり方について考える。	8月5日 15:50～17:20	共通講義棟 1号館 301教室	全講師	